

小学校適正配置協議会だより 第5号

発行：令和元年12月23日 倉吉市教育委員会学校教育課学校統合準備室

本年度第5回小学校適正配置協議会が開催されました。今回は、鳥取市で校区再編に関わられた方を講師に校区再編・学校統合の経緯及び義務教育学校について講演していただきました。

「子どもにとって必要な力を育む」「9年間のスパンで子どもの成長を考える」「人づくりと地域づくりのバランスが大切」等、たいへん参考になる視点を多く示していただきました。

◇日 時 令和元年11月19日(火) 午後7時～午後8時30分

◇場 所 上灘公民館 ◇参加者 各地区委員 35名

☆教育長あいさつ 倉吉市教育委員会 教育長 小椋博幸

- ・グループ協議の中で、義務教育学校について聞いてみたいという意見があったことから、講演会を開催することとなった。また、20日、22日の学校視察もよろしくお願ひしたい。
- ・講師の木下特任教授は湖南学園の初代校長でもあり、またそれまでは鳥取市教育委員会次長、学校教育課長で湖南学園をどのような学校にしていくかという準備の段階から関わっておられた。そのような経緯があり、義務教育学校を創設するにあたってたいへんな苦勞をしておられる。そのような話を聞かせてもらい、参考にしたい。

講演「義務教育学校で町づくり・人づくり」



島根大学教育学部附属教師教育研究センター 特任教授 木下 公明 氏

- ・子どもにとっていい環境である学校と地域の中での学校の存在意義は、時として対立するときがある。このバランスをどう調整するかが大切である。
- ・小学校6年間・中学校3年間計9年間で、中1ギャップや学力向上対策を考慮し、4・3・2制のブロック制で取り組み、小、中の壁を取り払う発想が義務教育学校である。「そういう考え方もできるのか。」という柔軟な見方や考え方もつ機会にしていきたい。
- ・9年間の中で教育活動をダイナミックにつくってみるといって教育論で考えて、小中一貫教育を取り入れた。人間関係の固定化を、ブロック制の導入で克服しようと考えたり、いろいろな行事を通して子どもを成長させるとともに、先生方の距離を縮めることを目指した。
- ・一貫校では小学校にも教科担任制を導入した。5、6年生のあたりで教科担任制として中学校の先生がどんどん入っている。また、新しい教科をつくることができたので、表現力の苦手な子供たちが多いという学校課題の克服を目指し、コミュニケーション科をつくって取り組んだ。
- ・湖南塾をつくったり、吉岡温泉のお湯で足湯をつくったりして、地域の人を巻き込んでいった。
- ・小規模転入で他の校区から湖南学園に通学している子どもが現在33名。どんどん減るといわれていた学園の子どもの数は減っていない。
- ・町づくりは人づくり。人づくりは教育だと思っている。経済が活性化して便利な世の中になっても、人づくりができていないと町の発展はない。とにかく人づくり、これを大切にするための教育を大事にしたい。
- ・統合問題にしても校区再編にしてもぜひ、教育がいかに大事かということが後世の子どもたちに伝わるような取組であってほしい。

～協議会委員感想～

- ◆保護者の立場で聞かせてもらった。木下先生が「子どもにとってよい環境」「とにかく子どもを1番に考えていかなければいけない」と話され、これまでの経験と一貫校について話が聞けてよかった。また、地域の方々の考えもよい方向に進んでいくことを望んでいる。
- ◆今までは、まず第1に子どものことを考えていたが、地域と力を合わせることもできるのだと思った。
- ◆地域づくりと学校づくりは、切っても切り離せない関係(バランス)。じっくりと焦らず10年、20年後を見据えて取組むべし。地域の思い、保護者の思いを大切にしたい。
- ◆地域の思いと、教育とのバランスをとるのは大変なことだと思うが、避けられないことなので向き合っていかなければならないと思った。
- ◆改めて教育の大切さを学ばせていただいた。学校の再編はとても大きな課題であり、避けては通れないので、今回の話をもとにしっかりと考えていきたいと思う。
- ◆講演を聞き、倉吉で議論されていることとかぶり、考え方・解決策などヒントが見えた。今後、具体案を提示され、検討を一步進めていくべきだと思う。

裏面もご覧ください

鳥取市立瑞穂小学校 学校視察概要

日時 令和元年11月20日(水) 午後1時15分～午後3時30分

参加者 委員8名



◇授業参観(全学級の学習の様子を参観しました。)

◇学校説明

- ・校歌の歌詞に「200の健児ここに集いて」とあり、一番多いときは昭和23年で243名いた。だんだん減少し昭和51年には55名まで減った。隣の宝木小学校と合併をしてはということも検討されたが、9号線に団地が造成されて急に増え出して、昭和62年には150名ぐらいとなった。校舎が手狭になったということで昭和63年にこの新校舎が建てられた。
- ・学級数は5学級で、4年生と5年生が複式学級となっている。
- ・近隣に浜村小学校、宝木小学校、逢坂小学校があり、瑞穂小学校と逢坂小学校が小規模転入制度を取り入れている。
- ・逢坂小学校の児童と一緒に学習することに取り組んでいる。全ての学年で交流機会を設けている。
- ・米やはま茶、しょうがなど、地元の特産品に関わる活動を地域の人にお世話になりながら取り組んでいる。

◇質疑応答

- 体育や音楽等はどうに行っているのか。
→逢坂小学校の児童と一緒にすることもあるが、基本は2学年合同で行っている。学習発表会は、全校で行っている。午前中は小学校の学習発表会、午後は地域の芸能発表会を行っている。運動会は、地域と合同で行っている。
- 教室に入って机が広くてとてもいいと感じた。教室も体育館も広くて恵まれている。子どもたちにとってすばらしい環境と思った。地域の協力を得ながらいろいろな体験をしており、小規模校のよさを感じた。
→地域の教育熱を感じている。校舎の規格も中学校並みとなっている。ここ4,5年、大体これくらいの人数で推移することが予想されており、来年度は6名が入学する。

鳥取市立湖南学園 学校視察概要

日時 令和元年11月22日(金) 午後1時25分～午後4時

参加者 委員11名



◇授業参観(全学級の学習の様子を参観しました。)

◇学校説明

- ・鳥取市が小規模転入制度を平成17年に始めた。最初は4名の利用だったが、現在は鳥取市全体で75名が11校に校区を越えて通っている。
- ・一貫校の特色として「適度な段差と学びの連続性」が挙げられる。中1ギャップということがよく言われるが、本校では4・3・2のブロックでつないでいる。このブロック制により、段差を緩やかにして、変化に対応できるようにしている。
- ・段階的な教科担任制の導入ということで、中学校の教員が小学校4,5,6年生に教えたり、或いは小学校の先生が自分の得意な教科の授業を中学生に教えたりで行ったりしている。
- ・小中の教員と一緒に授業研究を行うなど、互いによさを学び合っている。教員の人材育成や授業力向上につながっている。
- ・独自教科としてコミュニケーション科を設けており、9年間でプレゼンテーション力、人間関係力をつけることをめざしている。

◇質疑応答

- 一般に小学校から中学校に移る時にギャップがある。中等ブロックから高等ブロックに移るときは、どのような感じなのか。
→一番大きな段差は初等ブロックから中等ブロックに移るときである。5年生から制服を着て授業時間が中学校並みの50分になる。意図的に少し早めに大人にしようと意識している。中等ブロックの7年生から高等ブロックの8年生の段差はそんなに大きくないと思っている。
- 各教室に「切磋琢磨」と掲げられていた。子どもの考える切磋琢磨と大人の考える切磋琢磨に違いはあるか。
→小規模校になれば、競争心がつかないとよく指摘されるが、他を押しつけていく競争心ではなく、一緒に関わり合いながら、一緒に高め合っていくような切磋琢磨が育っているのではないかと思う。



※詳細は倉吉市HPに掲載しています。倉吉市HPはこちら →<http://www.city.kurayoshi.lg.jp/>

事務局：倉吉市教育委員会事務局学校教育課 電話22-8166 / FAX22-1638